

中国地方初の認定取得

液肥化事業でRルール構築

アースサポート

食品残さの液肥化事業を手掛けるアースサポート(島根県松江市、0)は、小会社の農業生産法人アースファーム、スーパーマーケットチェーソンの「ふくしま(島根県松江市)と連携してリサイクルループを構築、4月5日付で再生利用事業計画の認定を受けた。同計画の認定は、全国で20番目、中国地方では初となる。

尾崎俊也社長、00852・37・289

営する「クオリティーフーズラパン」店舗と青果センター、総菜センターから排出される食品残さ(年間135・6t)をアースサポートが回収。食品リサイクル施設で液肥を製造し、アースファームの農地(2・4ha)でこの液肥のみを利用して農産物を栽培、それをラパン各店舗で店頭販売する仕組みとなっている。

施設には液肥化装置2基と保管タンクを設置。24時間稼働で日量12tの処理能力を持つ。今年から、液肥の製造などの過程で排出されるCO₂の総量を表示する「カーボンフットプリント(CFP)」を導入、インドの風力発電プロジェクトによる排出権でカーボンオフセットする取り組みも開始した。

アースサポートは、一廃・産廃の収集運搬処理、総合ビル管理などの事業を展開しており、2007年に食品残さの液肥化施設を竣工、食品リサイクル事業に参入した。現在、松江市内を中心に食品工場やスーパーマーケット6カ所から、魚のあら、野菜くずなどの食品残さを月間約100t回収している。

今後、食品残さ回収量の拡大が見込まれることから、液肥化装置の増設を検討している。また、アースファームの農地拡大も行っていく予定。「今回の認定を弾みに、他の排出事業所とも協力し、リサイクルループを構築していきたい。回収先もさらに広げていく」として、事業拡大に意欲を見せている。



アースサポート本社